

第2回子ども読書活動推進計画策定委員会  
検討資料

令和2（2020）年8月

武蔵野市教育部図書館

# 目 次

1	基本情報	3
	(1) 武蔵野市の概況	3
	(2) 人の動き	4
	(3) 学校の配置	5
2	市立図書館の取組	6
	(1) 図書館整備状況	6
	(2) 活動状況	7
	(3) 年齢層に応じた働きかけ	10
3	学校図書館の取組	14
	(1) 学校図書館の概況	14
	(2) 学校図書館でのイベント、授業での取組	15
	(3) 学校図書館に求められる役割	17
	(4) 学校図書館の課題	18
4	教育・保育・公共施設等での取組	21
	(1) 保育園・幼稚園・こども園等での取組	21
	(2) 地域の子ども・子育て施設での取組	23
5	子どもたちの現状	28
	(1) 読書の状況	28
	(2) インターネット、電子書籍との接点	30
6	前計画の取組状況	33
7	現状と課題の整理	35

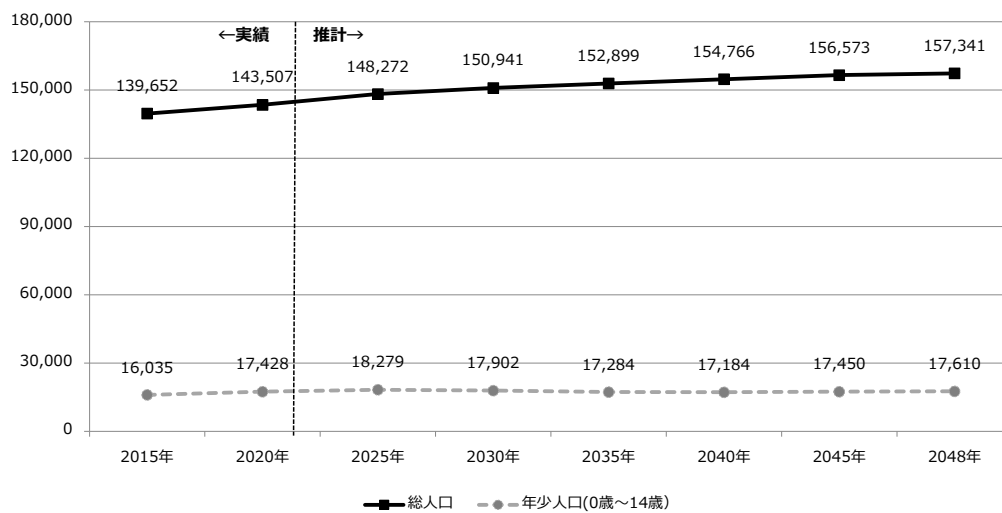
# 1 基本情報

## (1) 武蔵野市の概況

### ①人口

- 総人口は146,871人（令和2（2020）年1月1日現在、外国人含む）。全国の傾向とは異なり、総人口および年少人口とも、今後も増加していくと推計されています。
- 年少人口11.9%、生産年齢人口65.9%、老年人口22.2%で、全国と比較して生産年齢人口が多くなっています。
- 今後は、全国的傾向と同じく老年人口が増加していくと想定されますが、転居してくる層（社会増）の多くをファミリー層が占めることなどから、高齢化のスピードは全国と比べて遅いと推計されています。

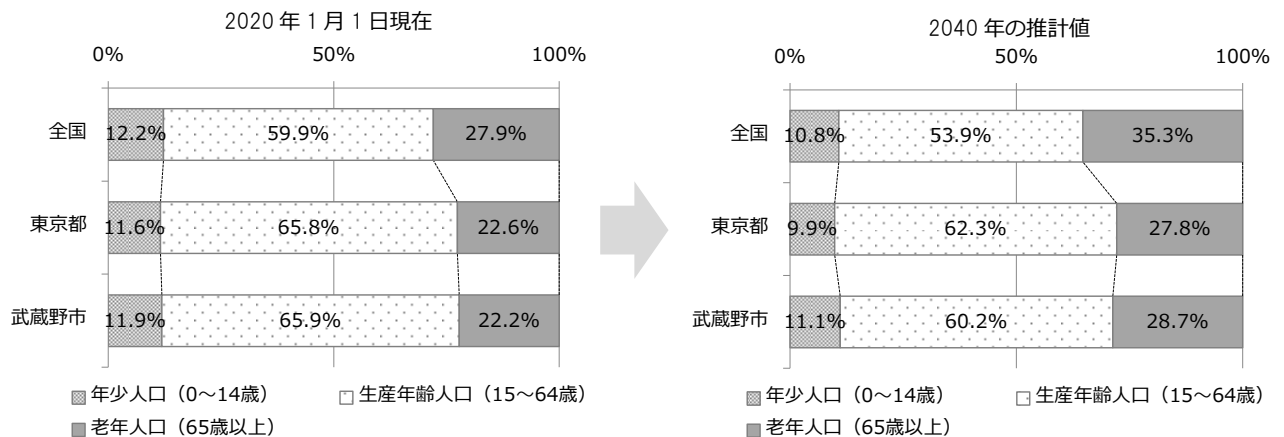
(人) 武蔵野市の人口の推移と将来推計（日本人人口）



\*実績値は住民基本台帳、推計値は武蔵野市による推計値による  
\*各年1月1日現在の日本人人口

資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数に関する調査」  
武蔵野市「武蔵野市の将来人口推計」（平成30（2018）年）より作成

### 年齢3区分人口比率

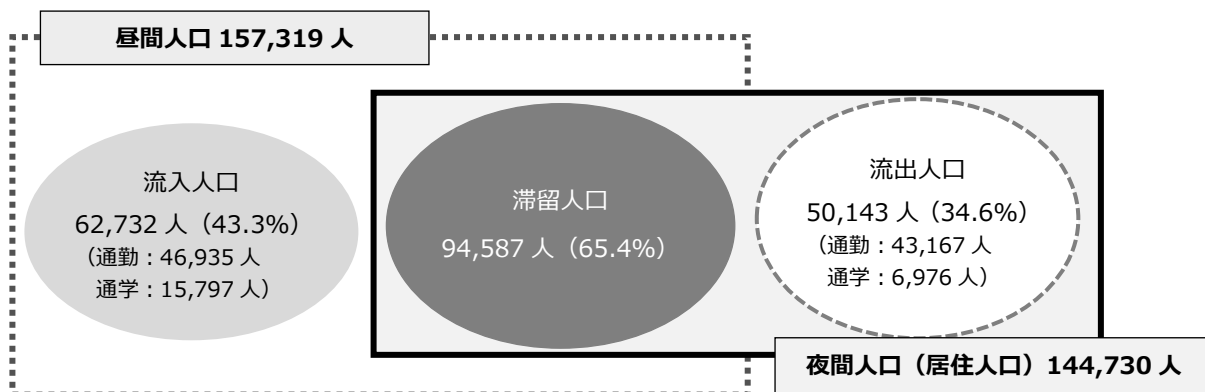


資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数に関する調査」  
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」  
東京都「東京都の人口予測（令和2（2020）年3月30日更新）」  
武蔵野市「武蔵野市の将来推計人口」（平成30（2018）年10月）より作成

## (2) 人の動き

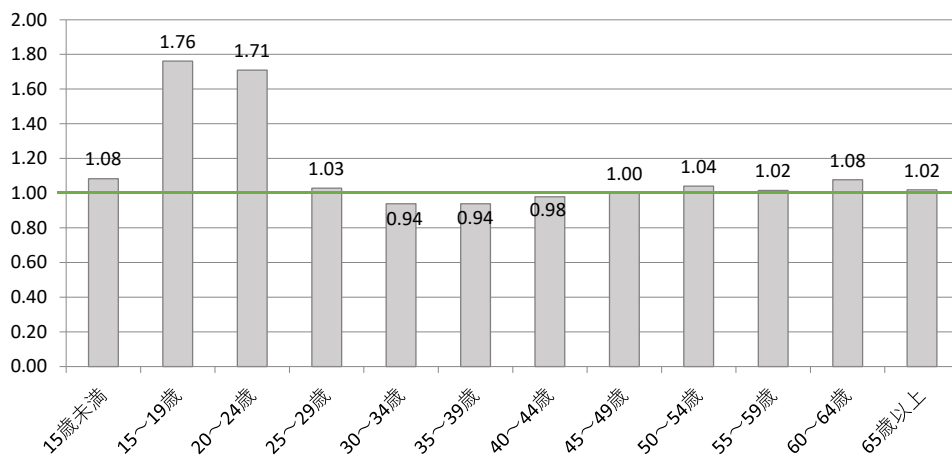
- 昼間は、市民のうち5万人程度が通勤通学のため市外に出て、一方で6万人程度が市内に流入しています（昼夜間人口比率1.13）。都心のベッドタウンとしての性格のみならず、通勤通学で人が集まる中核エリアとしての側面も有しています。
- 昼夜間人口比率を年齢別に見ると、高校や大学などがあることから、15～24歳が他世代より高くなっています。昼間も若者層が市内に多く滞在しています。

昼夜間人口の現状



資料：総務庁「平成27年国勢調査」より作成

年齢別昼夜間人口比率



資料：総務省「平成27年国勢調査」より作成

### (3) 学校の配置

- 市内には、市立小学校 12 校、市立中学校 6 校があり、小学生 5,916 名、中学生 1,842 名、合計 7,758 名が在籍しています。
- その他に、私立小学校 3 校、都立・私立中学校 5 校があり、合計 3,463 名が在籍しています。
- 高校以上では、都立・私立高等学校 6 校、大学 3 校、専修学校 6 校が立地しています。

#### 児童生徒・学生数（令和元（2019）年）

##### 就学前

	園児数
幼稚園(12園)	1,882
保育園	2,534
総合計	4,416

\* 保育園は市立、民間、こども園、管外の合計

##### 小学校

	児童数
第一小	439
第二小	423
第三小	422 (11)
第四小	400
第五小	457
大野田小	745 (27)
境南小	536 (22)
本宿小	378
千川小	282
井之頭小	504
関前南小	329
桜野小	941
市立小 合計	5,916
聖徳学園小	383
成蹊小	698
武蔵野東小	68 (27)
私立小 合計	1,176
総合計	7,092

\* ( )は特別支援学級に在籍する児童で外数。

##### 中学校

		生徒数
市立	第一中	284
	第二中	411
	第三中	298
	第四中	415 (25)
	第五中	201
	第六中	207 (1)
	市立中 合計	1,842
都立	武蔵高等学校附属中	358
私立	聖徳学園中	233
	成蹊中	795
	藤村女子中	58
	吉祥女子中	843
都立・私立中 合計	2,287	
総合計	4,129	

\* ( )は特別支援学級に在籍する生徒で外数。

##### 高等学校

都立	武蔵高校	585
	武蔵野北高校	711
私立	聖徳学園高校	593
	吉祥女子高校	808
	成蹊高校	968
	藤村女子高校	554
合計	4,219	

##### 大学

	学生数
成蹊大学	7,564
亜細亜大学	6,823
日本獣医生命科学大学	1,794
合計	16,181

\* いずれも大学院、留学生別科等含む

##### 専修学校

	学生数
専修学校（6校）	1,978

\* データはいずれも令和元年5月1日現在。

（「保育園」は平成31年4月1日現在）

## 2 市立図書館の取組

### (1) 図書館整備状況

市内の3つの駅勢圏に1館ずつ整備されています。

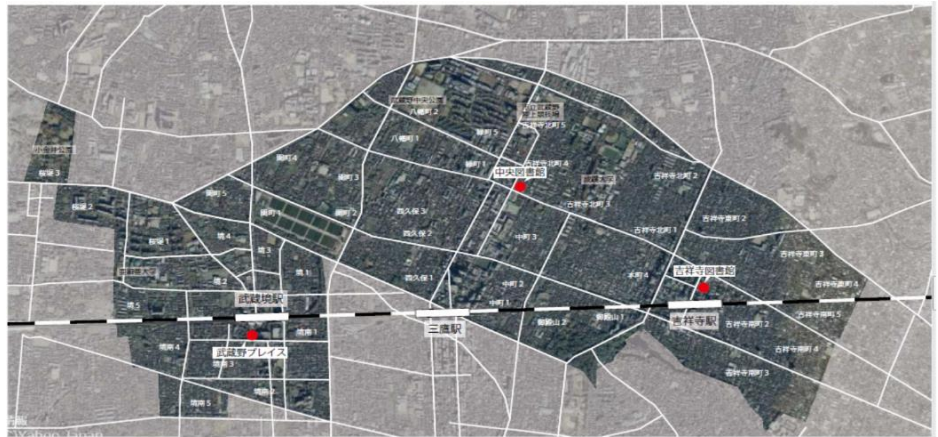
#### ① 中央図書館

- 武蔵野市立図書館の中央館として、全体の7割の蔵書を持ち、参考資料や郷土資料、視聴覚資料なども多数所蔵しています。
- 武蔵野市の中央圏の地域館として閲覧や貸出などの役割に加え、市立図書館の中核として各地域館のバックアップを行うとともに、市立図書館全体の総合的な企画・運営、資材部門、学校連携や障害者サービス、むさしのブックスタート等の中央館が担うべき各種事業を担っています。
- 管理運営は武蔵野市直営です。

#### 3館の立地

#### ② 吉祥寺図書館

- 3館の中で最も面積が小さく、延べ床面積は中央図書館の約20%程度となっています。周辺住民に加えて、吉祥寺駅や周辺商業集積に集まる人々による利用も多くみられます。



- 平成30(2018)年のリニューアルにあたり、基本理念を「小さなオアシス吉祥寺図書館 ～気軽に楽しく知的な出会いを～」に置き、気軽に立ち寄りたくなる魅力的な図書館を目指しています。ビジネスパーソンには利便性向上や街情報の提供及び発信、来街者には吉祥寺の地元密着情報の提供、子どもと保護者には専用フロア等で気軽に立ち寄れる空間の演出、高齢者には穏やかにつながる場、青少年には自己表現の場を提供しています。
- 管理運営は、指定管理者である公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団が行っています。

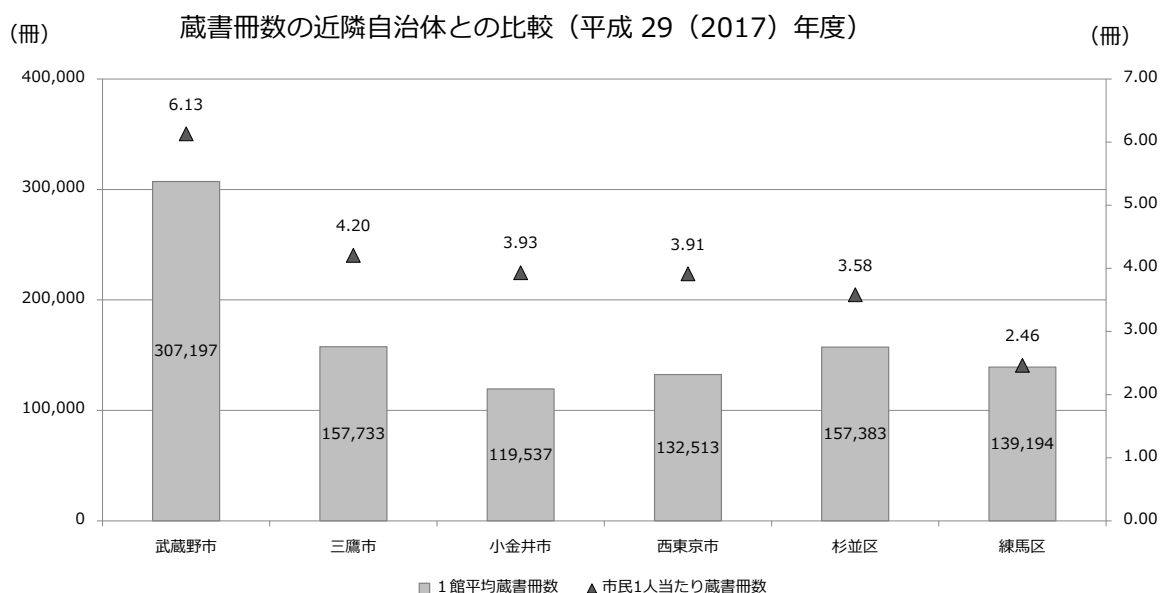
#### ③ 武蔵野プレイス

- 平成23(2011)年に開館した、3館の中では最も新しい図書館です。
- 図書館機能に加えて、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援といった機能も有し、「図書や活動を通じて人と人が出会い、それぞれが持っている情報(知識や経験)を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会(まち)の活性化を深められるような活動支援型の公共施設を目指す」施設となっています。
- 新しいコンセプトによる試み、駅前立地、1階のカフェ機能、各種の事業等により話題を集め、利用者数は年間200万人前後に達しています。
- 管理運営は、指定管理者である公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団が行っています。

## (2) 活動状況

### ① 蔵書数

- 武蔵野市立図書館 3 館合計の蔵書数は約 92 万冊で、1 館あたり・人口あたり蔵書数も、近隣市区と比較して大きくなっています。
- 人口 10～15 万人クラスの全国の自治体の中でも、蔵書冊数で 4 位、資料費では 1 位となっています。



資料：東京都立中央図書館「平成 29 年度東京都公立図書館調査」平成 30（2018）年 より作成

### 蔵書冊数・資料費の同規模自治体との比較（平成 31（2019）年）

#### ◎蔵書冊数

	自治体名	(千冊)
1	東近江市	987
2	長浜市	972
3	成田市	953
4	<b>武蔵野市</b>	<b>922</b>

#### ◎資料費

	自治体名	(万円)
1	<b>武蔵野市</b>	<b>9,386</b>
2	成田市	9,266
3	一関市	9,178
4	諫早市	7,500

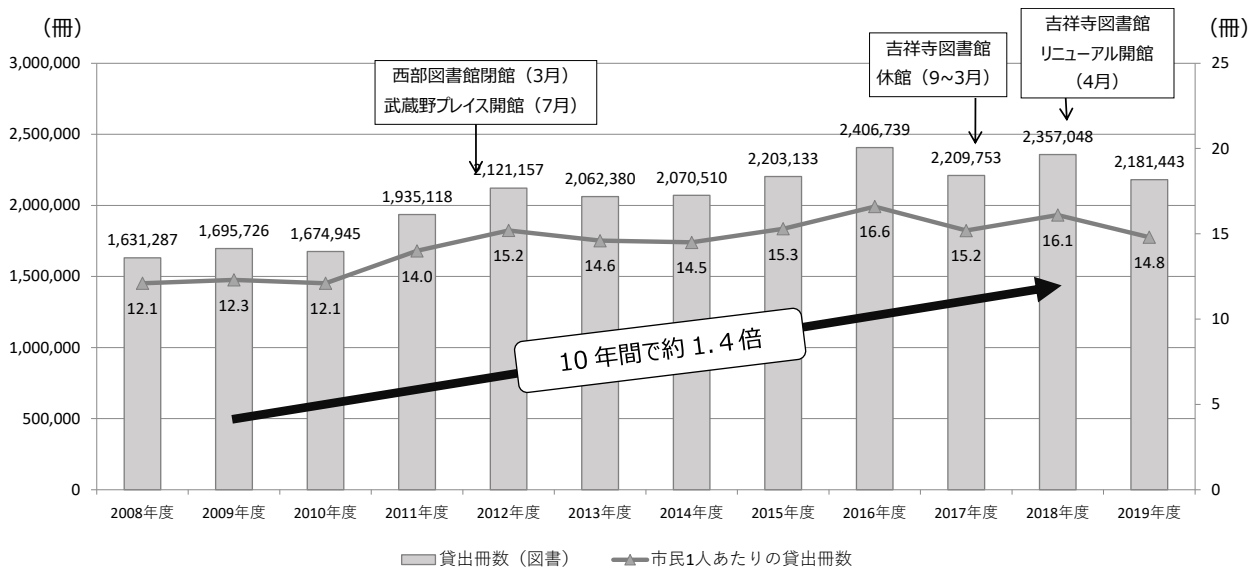
注) 人口 10～15 万人の 102 自治体間でのランキング。データは平成 31（2019）年 4 月 1 日を調査基準日としている。

資料：公益社団法人日本図書館協会「日本の図書館統計と名簿 2019 年版」令和 2（2020）年

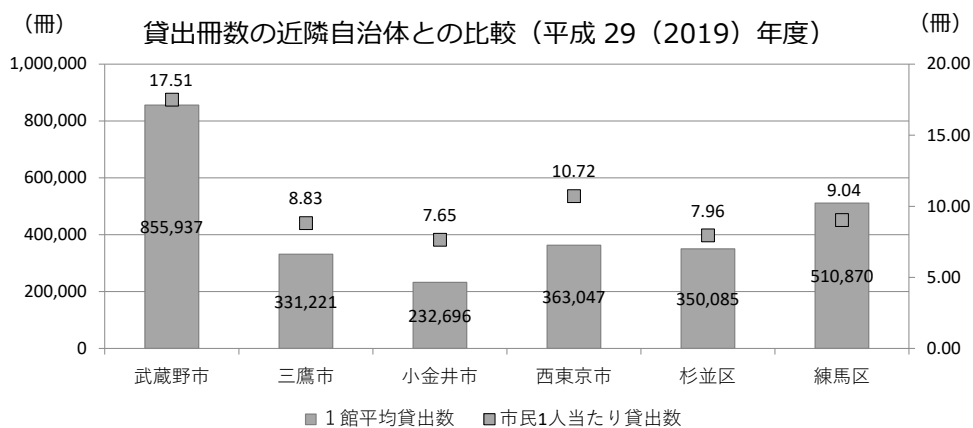
## ② 貸出状況

- 武蔵野市立図書館の3館合計の貸出冊数は年々増加傾向しており、平成30(2018)年度は年間に約236万冊と、10年前の約1.4倍となりました。
- この貸出冊数は、近隣自治体はもとより、全国と同規模自治体(人口10~15万人)の中でここ数年連続して第一位であり、全国トップクラスに活用されている図書館であることがわかります。

貸出冊数の推移



資料：武蔵野市「武蔵野市の図書館」各年度版より作成



資料：東京都立中央図書館「平成31年度東京都公立図書館調査」平成31(2019)年より作成

貸出冊数の同規模自治体との比較

(単位：千点)

	平成27(2015)年	平成28(2016)年	平成29(2017)年	平成30(2018)年	平成31(2019)年
武蔵野市	2,322	武蔵野市 2,448	武蔵野市 2,658	武蔵野市 2,426	武蔵野市 2,572
多摩市	1,725	多摩市 1,719	多摩市 1,696	箕面市 1,704	箕面市 1,681
箕面市	1,536	箕面市 1,613	箕面市 1,659	多摩市 1,672	多摩市 1,626

注) 図書に加え、視聴覚資料や雑誌なども含めた全資料の貸出点数。

人口10~15万人の102自治体間でのランキング。データは毎年4月1日を調査基準日としている。

資料：公益社団法人日本図書館協会「日本の図書館統計と名簿2019年版」各年版より作成

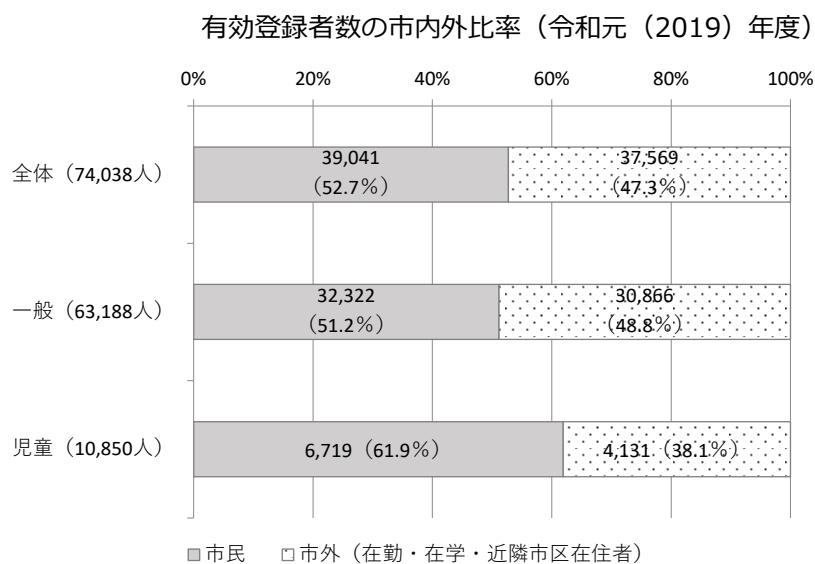


### ③ 有効登録者数

●令和元（2019）年度の市立図書館全体の有効登録者数<sup>1</sup>は 74,038 人で、全市民に占める市内在住登録者は 26.5%となっています。

●市内在住児童の登録者数は 6,719 人で、0 歳～12 歳市民の 43.7%にあたります。

●登録者のうち約半分は市外在住者であり、貸出冊数が周辺自治体より著しく高い背景には、市民と同程度のボリュームの市外利用者がいることがありと推察されます。



注：児童は0歳～12歳

資料：武蔵野市「武蔵野市の図書館 令和元年度」より作成

<sup>1</sup> 有効登録者数：登録者のうち、年度内に利用があった人数。武蔵野市では、平成 28（2016）年度から、登録者の統計を「有効登録者」に変更した。

### (3) 年齢層に応じた働きかけ

#### ① 乳幼児・保護者向け

- \* 実施数はいずれも年間合計数（令和元（2019）年度）。
- \* 令和元（2020）年2月26日～3月31日に実施予定だった事業はすべて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったため、例年より実施数は少なくなっている。
- \* 児童向け事業については、付き添いの大人もいるが、参加者数には子どもの人数のみ記載

項目	内容
ブックスタート	<p>むさしのブックスタート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成14（2002）年に開始。（3～4か月児健診時）</li> <li>・0歳児からの子育て支援事業の一環として、誕生時に読み聞かせの大切さや、本が情緒的発達に与える影響を与えるというメッセージを保護者へ伝え、絵本をプレゼントすることにより、乳幼児期から読書への興味を持つようにする。</li> <li>・図書館職員が保護者へ個別にメッセージを伝え、ブックスタートパック（絵本、アドバイス集、ブックリスト、図書館案内等）を手渡す。</li> <li>・実施数26回 参加：1,123組</li> </ul>
	<p>むさしのブックスタートフォローアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児への事業と同時にスタート。3歳児対象（3歳児健診時）。</li> <li>・物語を楽しむことができるようになる年齢になり、絵本への興味が増してくる中で、読み聞かせを親子で一層楽しんでもらえるよう、フォローアップしている。</li> <li>・図書館職員が子どもに向けて絵本の読み聞かせをした後、保護者に向けてメッセージを伝え、健診終了後に絵本とブックリストを手渡す。</li> <li>・実施数25回 参加：1,170組</li> </ul>
	<p>人形劇</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックスタートのフォローアップ事業として実施。</li> <li>・実施数1回 参加：大人35人、子ども31人</li> </ul>
	<p>講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックスタートのフォローアップ事業として、乳幼児の保護者を対象とした講演会を実施している。講師は絵本作家、児童文学者、元幼稚園教諭など、子どもと本に関わっている方が中心。</li> <li>・実施数1回 参加：大人31人、子ども24人</li> </ul>
	<p>乳幼児向けおはなし会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックスタートのフォロー事業の一つとして平成14年に開始。</li> <li>・家庭における乳幼児との楽しいひとときの過ごし方の参考にしてもらい、ブックスタートのメッセージをより深く浸透させることを目的としている。</li> <li>・実施数61回 参加：大人874人、子ども915人</li> </ul>
おはなし会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●おはなし会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせや手遊び、折り紙などを通じて、子どもたちに本の楽しさを知ってもらい、図書館に親しみをもってもらう。主に幼児から小学校低学年が対象。</li> <li>・実施数：3館合計118回（週1回各館で実施）、大人632人、子ども919人が参加</li> </ul> </li> <li>●青空おはなし会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵野プレイス建物前の広場で実施。</li> <li>・実施数：2回（うち1回は雨天のため室内で実施）、大人69人、子ども76人が参加</li> </ul> </li> </ul>
配布物の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「赤ちゃんと一緒に絵本を」0～2歳児向け</li> <li>・「絵本で広がる楽しい世界」3～5歳児向け</li> <li>・「しおりちゃん」幼児・小学校低学年向け（年3回発行）</li> </ul>

## イ 児童・生徒(個人)向け

	項目	内容
児童向けイベント	こどもまつり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画会や工作教室など本に関連する楽しい催し。子どもたちに図書館が「新しい発見ができる、知的好奇心を刺激するところ」であることをアピールし、図書館の利用を促進する。各館で、夏休み初めの1週間程度の期間で実施。</li> <li>・実施数：3館合計22回、子ども698人が参加</li> </ul>
	どっきんどようび	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段図書館に来ない子どもたちも、図書館・本に親しんでもらえるよう催しを実施。映画会・工作教室・人形劇など。</li> <li>・毎月第2土曜日、市内1館で実施。</li> <li>・実施数：3館合計10回、子ども371人が参加</li> </ul>
	夏休みこども教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察などの「直接体験」を通じて子どもたちに学びへの興味をもたせ、「間接体験」として読書の動機づけを行うことで、図書の利用促進を図る。</li> <li>・実施数：武蔵野プレイスで年2回、子ども27人が参加</li> </ul>
	春休み児童向けイベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>＊新型コロナウイルス感染防止拡大のため中止 (武蔵野プレイスでの実施を予定)</li> </ul>
	児童用配布物の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎それぞれの年齢層を対象としたおすすめの本の配布物を作成。</li> <li>①「しんいちねんせいにおすすめの本」 新小学校1年生向け</li> <li>②「しおりちゃん」 幼児・小学校低学年向け(年3回発行)</li> <li>③「ぶっくまーく」 小学校高学年向け(年3回発行)</li> <li>④「図書館のおすすめ本」 小学校4.5.6年生向け(夏休み前に配布)</li> </ul>
	テーマ展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しおりちゃん」「ぶっくまーく」に掲載された本の展示(年3回)</li> <li>・「子ども読書の日の本」の展示、「市内公立小学校の先生が勧める夏休みの本」の展示、「戦争と平和の本」の展示、「オリンピック・パラリンピックにむけた展示」、「クリスマスの本」の展示 など</li> </ul>

## ② ヤングアダルト向け

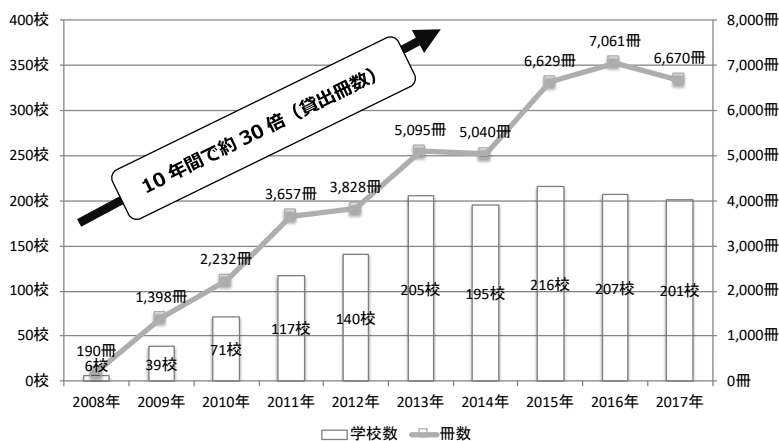
項目	内容等
武蔵野プレイス ティーンズスタジオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館機能と青少年活動支援機能の融合により、地下2階を「ティーンズスタジオ」として、19歳以下のみ利用可能なラウンジ、音楽や美術、ダンスなど各種の活動に対応した複数のスタジオ、青少年向け図書・雑誌と芸術系図書を配置するライブラリーなど、青少年の居場所ともしている。</li> <li>・このフロアでは青少年向けの図書展示も実施。</li> </ul>
職場体験の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内中学生(市立に限らない)の職場体験学習の受け入れ、司書資格取得過程の学生の実習およびインターンシップの受け入れを行なっている。</li> </ul>
図書展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生・高校生に対して読書のきっかけ作りや、選書の一助となるような図書の展示を実施。</li> <li>・実施数：3館合計9回</li> </ul>
YA世代向けイベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YA世代向けに、毎年異なるイベントを実施している。</li> <li>・昨年度実施したものは以下のとおり。</li> <li>① 『ミライのトビラ ～演じる編～』(吉祥寺図書館) →将来について考えるきっかけ作りとして、実体験に基づく講義と体験学習をセットしたイベント。「演じること」に職業として携わっている方を講師とし、講演及び体験学習を実施</li> <li>② 『ティーンズ1dayワークショップ ことばで表現してみようー詩のワークショップ』(武蔵野プレイス) →青少年の知的好奇心を刺激し、青少年自身による表現の場を提供するイベント。写真から感じたイメージをことばにしながらか、自分だけの詩を作成。詩で思いを表現する</li> <li>③ 『図書ラボ』(武蔵野プレイス)</li> </ul>

	→青少年が図書館や司書を身近に感じ、読書のきっかけになることを期待し、スタジオラウンジ内で本の修理や装備などの図書業務を行い、青少年との交流をもつ。 →夏休みには「夏休み×図書ラボ」として、図書展示とともに、担当者が青少年に向けて展示資料の紹介や蔵書の調べ方、図書館の使い方などを案内。
配布物の作成	◎「図書館のおすすめ本」中学生向け（夏休み前に配布）

### ③ 児童・生徒向け：学校・公共施設との連携

項目	内容等
読書の動機づけ指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和42年から実施。</li> <li>・学校と図書館、講師が連携する特色ある事業として50年以上続いている。平成14（2002）年には文部科学大臣賞を受賞した。</li> <li>・市立小学校（12校）の小学3年生を対象に実施。毎年度、講師と学校側代表、図書館職員からなる「図書選定部会」が、新刊書を中心に30数冊を選定。当日は講師と図書館職員が学校を訪問し、読書指導を行う。使った本はその場でクラスに贈られ、その後、参観の保護者との間で質疑応答や読書相談などを行う。</li> </ul>
子ども図書館文芸賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成16（2004）年度に開始。</li> <li>・市内の小学校と連携して実施。</li> <li>・文芸作品の創作、読書感想文・詩・画、POPや本の帯など多様な部門があり、子どもたちの国語力の向上や表現力の育成を目指している。</li> </ul>
学校への資料貸出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小学校、中学校等について、移動教室・修学旅行・セカンドスクールの事前学習用資料、調べ学習用資料や読書活動用資料の貸出を行っている。</li> <li>・ニーズに応じてオリジナルでパックを作ること、貸出資料の範囲の拡大やPRの充実などにより、貸出件数・冊数ともに年々伸び、この10年間で約30倍の貸出冊数となった（*下記グラフ参照）</li> <li>・平成20（2008）年度から平成21（2009）年度まで、学校と市立図書館との連携検討委員会を設置し、今後の学校連携の拡充について検討し、報告書を作成。</li> <li>・平成22（2010）年度からは各市立小中学校の教員と図書館員で、学校連携用図書の選書会議を開催している。</li> </ul>
図書館見学・調べ学習の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小学校、中学校の図書館見学や調べ学習の受け入れを行なっている。</li> <li>・平成31年度は小学校6校</li> </ul>
学級文庫、学童保育への団体貸出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭文庫や学級文庫、学童クラブ等への団体貸出を実施（貸出登録団体数29団体）。</li> <li>・団体貸出用図書は、一般貸出用図書とは別に所蔵している。</li> </ul>
児童書リサイクル事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書点検等で除籍した児童書を年1回、各図書館で、市内の保育園、学童保育所、学校図書館等に配布し、再活用している。</li> </ul>

武蔵野市立図書館の学校への資料貸出数の推移



#### ④ 配慮を必要とする子ども向け

項目	内容等
出張おはなし会	・みどりのこども館ウィズと千川さくらっこクラブ（障害者福祉センター内）で、障害を持つなどで図書館に来館することが難しい子どもたちとその保護者を対象に、1ヶ月に1度、出張おはなし会と本の貸出を実施。
図書館見学会	・年に1度、図書館見学会を実施。
見て！ふれて！ためしてみよう！ 一日としょかんバリアフリー体験	・障害者資料を多くの人に知ってもらい、障害者理解を促すことを目的としたイベント。 ・音声ガイド付きの映画上映会、マルチメディアデージー上映会、点字教室、おはなし会、図書館内のバリアフリー探検などをとおして、子どもから大人まで障害者への理解を深める。
障害のある方に向けた向けサービス	・（登録者向け）カセットテープ、デージー、マルチメディアデージーの作成及び貸出（他館からの取寄せ含む）、対面朗読サービス、書籍郵送サービス、デージー再生機器貸出、個人資料作成、利用者懇談会 ・（予約不要）LLブックの貸出、大活字本の貸出、点字雑誌の提供、リーディングトラックの貸出、車いす専用席、中央図書館と武蔵野プレイスには拡大読書器の設置、自動読み上げ機の設置

#### ⑤ 子ども向け事業等におけるボランティア導入

項目	内容等
ブックスタートボランティア	・平成29年度から、0歳児対象のブックスタートで市民ボランティアを導入。保護者と乳児への読み聞かせや説明を職員と一緒に担当している。
おはなし会ボランティア	・「おはなし語ろう会」月に1回、各館で午後のおはなし会を担当。素話や読み聞かせなど。 ・元幼稚園教諭などの経験者が、午前中に開催している乳幼児向けのおはなし会を担当。
音訳	・「武蔵野市立図書館朗読奉仕の会」（第41回「朗読録音奉仕者感謝行事」において長年の実績が認められ、朗読録音奉仕グループ奨励賞を受賞している）。主に視覚障害者を対象として、デージー図書の作成、対面朗読などを行っている。夏休みに実施しているバリアフリーイベントでは、子どもたちも対象として、音訳体験を行っている。
点訳	・「六実会」録音図書の点字タイトルの作成などを依頼しているほか、夏休みの子どもまつりや、バリアフリーイベントでは、子どもたちの点字教室の講師なども行っている。

### 3 学校図書館の取組

#### (1) 学校図書館の概況

- ・武蔵野市立小学校では平均約 13,700 冊／校の蔵書数が、同中学校では平均約 15,900 冊／校の蔵書数があり、各校に学校図書館サポーターが 1 人配置されています。

市立小学校の学校図書館

	第一小	第二小	第三小	第四小	第五小	大野田小
児童数（人）	439	423	422	400	457	745
蔵書数（冊）	11,340	14,376	12,620	11,665	10,956	20,309
年間貸出冊数（冊）	25,924	25,322	18,000	31,456	27,826	30,309
図書館サポーター（人）	1	1	1	1	1	1
	境南小	本宿小	千川小	井之頭小	関前南小	桜野小
児童数（人）	536	378	282	504	329	941
蔵書数（冊）	14,959	16,211	12,588	11,932	13,502	13,900
年間貸出冊数（冊）	24,005	24,005	15,472	36,190		35,406
図書館サポーター（人）	1	1	1	1	1	1

市立中学校の学校図書館

	第一中	第二中	第三中	第四中	第五中	第六中
生徒数（人）	284	411	298	415	201	207
蔵書数（冊）	14,198	18,405	19,600	16,628	13,955	12,820
年間貸出冊数（冊）	3,550		3,380	2,623	1,069	2,379
図書館サポーター（人）	1	1	1	1	1	1

- ・学校図書館への新聞配備状況

小学校	全 12 校中 配備あり（※） 4 校／配備なし 8 校 ※4 校中 3 校は子ども新聞のみ、1 校は一般紙 1 紙を配備
中学校	全 6 校中 配備あり（※） 2 校／配備なし 4 校 ※2 校中 1 校は中高生新聞 2 紙、1 校は中高生新聞 1 紙と一般紙 2 紙

## (2) 学校図書館でのイベント、授業での取組

東京都読書状況調査<sup>2</sup>（調査2 学校における読書活動等に関する取組状況の調査）への武蔵野市回答より取組状況・事例を紹介します。

### ①小学校(全12校)

#### ■読書時間の確保

	調査項目	全校実施	一部実施	未実施
1	朝や昼休み等に読書時間を設定している。	12	0	0
2	「読書週間」「読書月間」等を設けている（夏季休業期間中も含む）	11	0	1

#### ■読書指導の充実

	調査項目	全校実施	一部実施	未実施
1	教師や児童による読み聞かせを実施している。	8	4	0
2	学級活動等で読書会等、本を読んで思ったことを伝える場を設けている。	3	9	0
3	独自の「課題図書」等のリストを作成している（夏季休業期間中も含む。）。	4	1	7
4	読書指導の資料・教材を校内で組織的に活用している。	5	4	3
5	教師の推薦図書を児童に紹介している。	4	6	2
6	学級文庫を設置している。	11	1	0

#### ■各校の事例

年間指導計画の中に読書旬間（2週間）を学期ごとに実施している。 図書委員の児童が中心となり、読書郵便、おすすめ本の紹介、低学年への読み聞かせ等の読書活動の啓発を全校児童対象に行っている。
①毎月1回図書の日を設定し、図書委員会の児童が、図書室からのお願いや新刊本、人気本ランキング等を全校に放送で伝えている。 ② 年間2回読書旬間（6月あじさい読書旬間、10月もみじ読書旬間）を設けている。その期間は毎朝15分間集中して読書に取り組む。この期間は自宅から自分の本を持ってきて良い。また図書委員会児童による低学年への読み聞かせや、担任を学年間で入れ替えての読み聞かせ等、読書に親しむための工夫をしている。 ③低学年保護者による読み聞かせボランティア。
学期ごとに全クラス学級文庫を置き、50冊配置している。
読書旬間中に、児童向けにゲストティーチャーによるストーリーテリング（読み聞かせ）体験の機会を作り、物語の世界に浸る体験活動を行っている。

<sup>2</sup> 「東京都教育委員会では、隔年で公立学校や図書館における読書活動推進状況、公立学校の児童・生徒の読書状況調査を行い、推進状況を把握します。調査結果は、平成21年度分から区市町村や学校での読書活動の推進の参考となるよう、公表していきます。」  
（出典：東京都教育委員会ホームページ <https://www.kodomo-dokusho.metro.tokyo.lg.jp/shukei/>）

## ②中学校(全6校)

### ■読書時間の確保

	調査項目	全校実施	一部実施	未実施
1	朝や昼休み等に読書時間を設定している。	5	1	0
2	「読書週間」「読書月間」等を設けている（夏季休業期間中も含む）	6	0	0

### ■読書指導の充実

	調査項目	全校実施	一部実施	未実施
1	教師や生徒による読み聞かせを実施している。	1	0	5
2	学級活動等で読書会等、本を読んで思ったことを伝える場を設けている。	1	1	4
3	独自の「課題図書」等のリストを作成している（夏季休業期間中も含む。）。	3	1	2
4	読書指導の資料・教材を校内で組織的に活用している。	1	4	1
5	教師の推薦図書を生徒に紹介している。	2	3	1
6	学級文庫を設置している。	4	1	1

### ■各校の事例

教科授業の中で、司書教諭や図書支援員とT2・T3として活用し、調べ学習時に資料の選定や紹介などを行っている。
ビブリオバトルの実施
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室総選挙（ビブリオバトルのようなもの）</li> <li>・本の国への招待状（読書紹介掲示）</li> </ul>



### (3) 学校図書館に求められる役割

武蔵野市第三期学校教育計画（令和2～6年度）では、学校図書館に関して次のように記述がされています。

<b>施策① 言語能力の育成</b>
<b>No. 1 言語活動の充実</b>
<b>【施策の背景】</b> (中略) ○また、読書は、多くの語彙や多様な表現、様々なよいものに触れることを通して、擬似的に体験したり知識を獲得したりして新たな考え方に出会うことを可能にする、言語能力を向上させ、思考力を高めるための重要な活動です。一方で、学校の授業以外で本を読まない児童・生徒が、小学生、中学生とともに一定程度いる状況から、読書活動を推進していく必要があります。
<b>【取組の内容】</b> ①②略 ③学校図書館の充実を図るとともに、様々な種類の本にふれる読書活動を推進します。

<b>施策② 情報活用能力の育成</b>
<b>No. 3 学校図書館の活用</b>
<b>【施策の背景】</b> ○情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力です。 ○情報活用能力の育成に向けて、これからの学校図書館には、読書活動の推進に加え、調べ学習等各教科等の様々な授業における探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待されています。
<b>【取組の内容】</b> ①学校図書館が計画的に利活用され、子どもたちの主体的な学習活動や読書活動が展開されるよう、知的好奇心を醸成するための図書資料の充実 や環境整備、市立図書館との連携等、学校図書館を「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能をもつ、学びの場として整えます。 ②図書館利用ガイダンスの充実や教科学習と連動した適切な資料の提供等、学校図書館に期待されている役割を最大限に発揮するため、学校図書館サポーターの専門性向上や常駐化等人的支援を充実させます。

【参考】文科省学校図書館ガイドラインより抜粋

#### (1) 学校図書館の目的・機能

学校図書館は、児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能とともに、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有している。

#### (4) 学校図書館の課題

- ・学習指導要領解説総則編では、学校図書館は、読書活動や読書指導の場である「読書センター」、学習活動を支援したり授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり子どもたちの情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有していると記載されています。

##### ① 「学習センター」「情報センター」機能の強化

- ・学習での「読書」は、本を読むことに加え、新聞、雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する資料を読んだりすることを含んでいます。現状では、学校図書館では、図書の種類が、9類（小説・物語）に多く蔵書されている状況があります。
- ・言語能力や情報活用能力を育成し、子どもたちの深い学びを実現するために求められる学校図書館の役割を踏まえて、様々な種類の図書に触れられるよう、蔵書冊数を増やすことのみならず、適切な選書を行い、蔵書の充実を図る必要があります。

##### ② 人的配置・人材育成の強化

- ・教員は、授業の合間などに子どもたちの相談を受けたり、授業準備を行ったりします。また、授業が終われば、学校運営のために必要な会議、事務作業などに追われます。子どもたちの深い学びを実現し、教員の授業をより一層効果的なものとするためには、子どもたちの知的好奇心の醸成を支える人材の配置が有効なものとなってきます。学校図書館サポーターの勤務時間は、子どもたちの在校時間、教員と連絡を取る時間が確保される勤務状態にはなっていません。
- ・また、学校図書館資料の整理などが学校図書館サポーターの業務内容となっており、学校での学校図書館に求められる役割を踏まえ、学校図書館サポーターの役割は大きくなっています。子どもたちの学びを支える人材として専門的な力量を高めていくことが必要になってきます。

#### 【参考】学校図書館サポーターについて

業務内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校図書館資料の貸出や返却、利用者登録等</li><li>・図書の管理、購入</li><li>・教員が学校図書館を利用して行う授業の補助 →各クラス週に1時間ずつの「図書の時間」の支援など</li><li>・学校図書館資料の整理や図書データベースの維持管理</li><li>・児童・生徒の学校図書館利用の支援 →図書館オリエンテーションの実施、図書館マナーや使い方の説明、図書のめあて</li><li>・図書委員会活動の支援</li><li>・図書館イベント、読み聞かせ等</li><li>・その他、学校図書館利用に関すること</li></ul>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

任用条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎勤務日数 原則、月曜日から金曜日（祝日・夏休み・冬休み・春休みを除く）</li> <li>◎勤務時間 1日につき5時間（ただし、小学校は水曜日のみ3時間）、勤務の時間帯は学校により異なる</li> <li>◎雇用形態 会計年度任用職員（アシスタント職員）</li> <li>◎時給 1,030円 交通費は通勤距離が片道2キロメートル以上ある場合、規定に基づき別途支給</li> <li>◎資格 司書、司書補または司書教諭の資格を有する、または同等の能力を有すると教育委員会が認める者</li> </ul>
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	年度	任用期間	勤務日数	勤務時間
経緯	H17	通年	週3日	1日3時
	H18～			1日3時間
	H20～		小学校 1日5時間、水曜のみ3時間	
	H23～	前期3月～7月	週5日	中学校 1日3時間
	H24～	後期9月～2月		小学校 1日5時間、水曜のみ3時間
	H27～	1学期、2学期、3学期		中学校 1日5時間
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館サポーターの勤務時間が1日5時間と決まっているため、学校図書館の開館時間が限定されています。放課後の図書館開放などは困難な状況です。</li> <li>・図書の貸出に加えて、読ませる読書のあり方、よい読書環境づくり、家庭への働きかけ等、学校図書館としてのプラスαの取組が難しい状況にあります。</li> <li>・勤務時間が制限されていることから、市立図書館や書店などで本を探す、図書計画について検討するなどの活動を、勤務時間外に行っている図書館サポーターが多くみられます。任用条件に対して過重な負担となっている面は否めず、各図書館サポーターの意欲・やる気に依存する形となっています。</li> <li>・制度上任期が1年以内のため、長期的な計画に基づく図書館のあり方検討などが難しく、短期的な視野での作業が業務の中心となりがちです。</li> <li>・図書館サポーターの任用条件の範囲内の業務が当然ですが、一方で、休日にも図書館を訪れる等の熱心な図書館サポーターも多く、学校により図書館環境に差異が生じています。</li> <li>・図書館サポーターの勤務時間がタイトであるため、サポーター会議の回数も減少しており、学校図書館間のネットワークや連携が減少しています。</li> <li>・市立図書館と学校図書館、学校図書館と地域施設などのネットワークも、個人レベルでの関係性が主となっています。</li> </ul>			

【参考】「司書教諭」と「学校司書」及び「学校図書館サポーター」に関する制度上の比較

	司書教諭	学校司書	学校図書館サポーター
設置根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館法第5条第1項、附則</li> <li>・学校図書館法附則第二項の学校の規模を定める政令 ～12 学級以上の学校には必ず置かなければならない。 (11 学級以下の学校については、当分の間、設置を猶予。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館法第6条第1項 ～置くよう努めなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵野市立小学校及び中学校学校図書館サポーター配置要綱</li> </ul>
位置付け	<p>【業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の専門的職務を掌る。</li> </ul> <p>【職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主幹教諭、指導教諭又は教諭をもって充てる。《学校図書館法第5条第2項前段》</li> </ul>	<p>【業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専ら学校図書館の職務に従事する。</li> </ul> <p>【職種】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校事務職員《学教法第37条第1項・第14項等》(又は「その他必要な職員」《学教法第37条第2項等》)に相当。</li> </ul>	<p>【業務内容】《要綱第2条》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館資料の貸出や返却等、児童・生徒の学校図書館利用の支援</li> <li>・教員が学校図書館を利用して行う授業の補助</li> <li>・学校図書館資料の整理や図書データベースの維持管理に関すること</li> <li>・その他、学校図書館利用に関すること</li> </ul>
資格(養成)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司書教諭の講習を修了した者《学校図書館法第5条・公費負担第2項後段》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格について制度上の定めはない。 ～各地方公共団体における採用時には、それぞれの実情に応じ、司書資格や司書教諭資格、教諭免許状、相当実務経験等の資格を求める等の資格要件を定めて、学校司書を募集。</li> <li>・学校司書の資質の向上を図るため、研修の実施等に努めなければならない。《学校図書館法第6条第2項》</li> </ul>	<p>【資格要件】《要綱第3条》</p> <p>～次の各号のいずれにも該当するもの～</p> <p>(1)司書教諭の資格又はこれと同等の能力を有すると委員会が認める者</p> <p>(2)学校長の教育方針に協力的であり、教員の補助として適切な言動をとることができると委員会が認める者</p>
勤務形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤又は非常勤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤 1日につき5時間(ただし、小学校は水曜日のみ3時間)</li> </ul>

## 4 教育・保育・公共施設等での取組

市立図書館、学校図書館のほか、子どもたちが読書に親しむ環境として、多くの保育・教育・公共施設があります。

ここでは、それらの施設の読書に関する取組について整理していきます。

### (1) 保育園・幼稚園・こども園等での取組

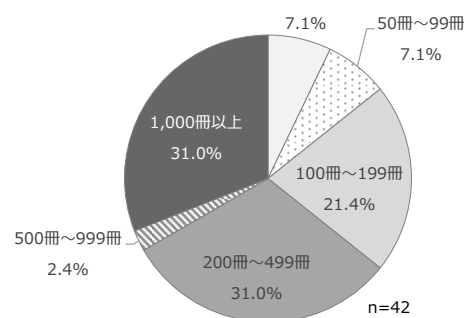
武蔵野市には12の公立幼稚園のほか、私立幼稚園、公立・私立保育園、こども園等があります。

武蔵野市立図書館では、令和元（2019）年6月にそれらの園にアンケート調査を実施し、42園から回答を得ました。その結果から、一部をご紹介します。

#### ① 子ども用資料の冊数(概数)

- 50冊未満から1000冊以上に広く分布しています。  
「200～499冊」と「1,000冊以上」がともに31.0%で最も多くなっています。
- 最多冊数は、保育園では2,100冊、幼稚園では4,000冊でした。

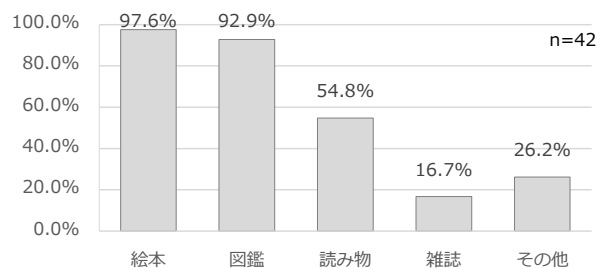
子ども用資料の冊数（概数）



#### ② 子ども用資料の種類

- 「絵本」と「図鑑」が中心的な資料となっています。

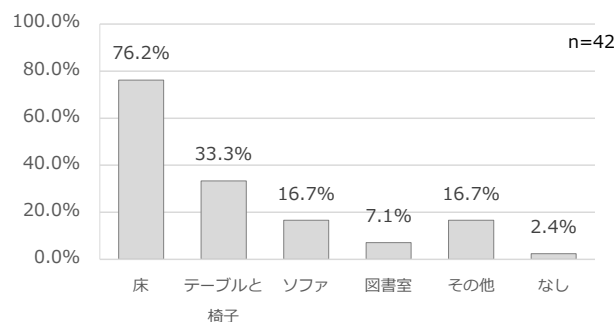
子ども用資料の種類（複数回答）



#### ③ 子どもの読書スペース

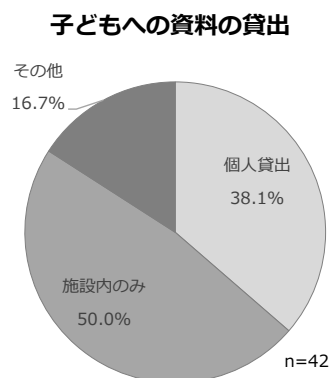
- 「床」が最も多く、76.2%となっています。「テーブルと椅子」は全体の3分の1程度、図書室は7.1%でした。

子どもの読書スペース（複数回答）



#### ④ 子どもへの資料の貸出

- 「施設内のみ」が半数となっています。
- 「その他」としては「季節（例えばクリスマスなど）のときのみ個人貸出を行う」といった回答がありました。

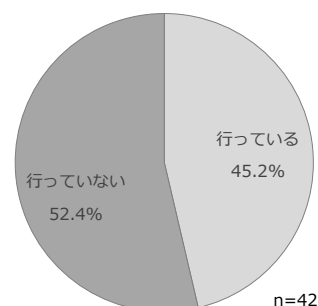


#### ⑤ 本に関するイベントの実施

- 「行っている」「行っていない」がおおよそ半数ずつ程度となりました。「行っていない」園が若干多くなっています。
- 具体的な内容としては、次のようなイベントが挙げられました。

- ・おはなし会  
素話、ペープサート、パネルシアターなど
- ・読み聞かせ  
外部の方による読み聞かせ、ボランティアの読み聞かせ  
父母会活動としての読み聞かせ  
音楽にあわせた読み聞かせ
- ・保護者向け絵本講座（在園・地域の保護者向け。絵本の楽しみ方、遊び方、子どもと絵本を楽しむ意義など）
- ・紙芝居つきコンサート
- ・文庫だよりの発行 など

本に関するイベント



#### 千川保育園

- ・ 玄関には保護者用の貸出できる本が置かれている。
- ・ 各クラスにそれぞれの年齢に合った絵本を配置。
- ・ 季節ごとに本を絵本を入れ替える。



#### 境こども園

- ・ 1階 「としよコーナー」自由に本を選べる。貸出も可
- ・ 2階 「ほんの部屋」オープンスペースの図書室。蔵書約800冊
- ・ 各教室にも表紙を見せられる小さい本棚がある。



## (2) 地域の子ども・子育て施設での取組

### 【0歳～3歳】子育て支援0123施設

- ・「0123はらっぱ」（平成13年開設）、「0123吉祥寺」（平成4年開設）の2館がある。
- ・0～3歳の子どもとその家族が自由に遊ぶことができる子育て支援施設。
- ・2館とも、プレイホール、プレイルーム、多目的室などとともに、50㎡前後の「図書コーナー」があり、子どもに読んであげたい絵本や紙芝居、大人向けの図書をそろえている。
- ・展示コーナーとして、季節の本、赤ちゃん向けのコーナー、子育ての本・父親向けの本のコーナーなどを設置し、ゆったりと床や椅子に座って絵本などを楽しむことができる。
- ・「0123 吉祥寺」では一日約 70 組、「0123 はらっぱ」は約 100 組程度の親子が利用している。

### 図書コーナー概要（2館共通）

子ども用資料の冊数	各館 約3,000冊
子ども用資料の種類	①絵本 ②読み物 ③図鑑 など
子どもへの資料の貸出	施設のみでの利用
子どもの本関係業務の人数	1人くらい
子どもの本関連イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはなし会（ボランティアによる読み聞かせ 週1回程度）</li> <li>・保護者向け講座（年0～1回程度 外部講師による） など</li> </ul>



プレイホール（0123はらっぱ ホームページより）



庭（0123はらっぱ ホームページより）

### 【小学生】学童クラブ（学童保育）

- ・市立小学校の学区ごとに12の学童クラブがある。市内在住の小学校3年生までの放課後  
 監護に欠ける児童を対象としている。
- ・多くの施設が200冊以上の児童書を設置している。
- ・帰りの会や夏休み中など、読み聞かせをよく行っている。

子ども用資料の冊数	200冊以上が多く、中には1000冊以上という施設もある
子ども用資料の種類	①絵本 ②読み物 ③図鑑 ④マンガ など
子どもへの資料の貸出	大半は施設のみでの利用
子どもの本関連イベント	各学童クラブで様々なイベントを実施。  <b>【例】</b> おはなし会（地域の方を招いて、紙芝居や素話をして頂いている） 保護者向け講座（お母さん向けの絵本よみきかせ） 絵本のひき語り うたでのよみきかせ） ハロウィン、夏祭り、クリスマス、遠足等 帰りの会や夏休みお昼寝の前に読み聞かせ など





### 【小学生】地域子ども館あそべえ

- ・小学生の放課後の居場所の一つとなるよう、学校施設等を利用し、「教室開放」「校庭開放」「図書室開放」を実施している。市内の小学校12校で実施。
- ・おはなし会などの催しを実施。読書は主に図書室ですが、あそべえとしてマンガをそろえているところもある。

#### 図書コーナー概要（2館共通）

子ども用資料の冊数	200冊～300冊が多いが、500冊（桜野あそべえ）、1,200冊（井之頭あそべえ）など、冊数が多いあそべえもある
子ども用資料の種類	①絵本 ②読み物 ③図鑑 ④マンガ など
子どもへの資料の貸出	施設のみでの利用
子どもの本関連イベント	各あそべえで様々なイベントを実施。  【例】 おはなし会（素ばなし、紙芝居、手遊び等） 工作教室 紙芝居一座 図書スタッフやボランティアによる読み聞かせ 子どもたちによるパネルシアターや影絵シアター うつつ絵、ミニ本作り、しおり作り など



## 【地域施設】 コミュニティセンター

- ・ 武蔵野市独自の、公設民営の多目的・多世代交流施設。土地の選定から設計まで市民参加で行い、市民ボランティア（コミュニティ協議会）が指定管理者として管理運営している。
- ・ コミュニティづくりの拠点として全市に20（分館を含む）立地。略称「コミセン」として親しまれている。
- ・ ロビーなど自由に使える空間があるコミセンでは、放課後や休日に子どもが集まったり、中高生が学習で利用する姿も見られる。

子ども用資料の冊数	30冊・50冊など100冊未満の施設が多いが、600冊・700冊といった施設もある。
子ども用資料の種類	①絵本 ②読み物 ③図鑑 ④マンガ など
子どもへの資料の貸出	施設のみでの利用が多いが、個人貸出を行っている施設も見られる
子どもの本関連イベント	各学童クラブで様々なイベントを実施。  【例】 工作教室 行事の中で時々紙芝居など使用 おはなし会（パネルシアター、手遊び等） 保護者向け講座（これからコミセンで行えたらと思っています）" 読み聞かせ（地域のグループよみきかせ、折り紙などを行う） 親子ひろば（あそびと絵本・紙芝居など 未就学児の親子対象） 子供科学教室 など
事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども室の中に絵本などを設置（子ども室の利用は幼児のみ）</li> <li>・ 小学生向きの「あそぼうよ」活動の中で、時々紙芝居、絵本を使用することがあります。①サロン（新聞、料理、園芸、子どもの絵本少し）②ブレイルーム（絵本、図鑑、読み物）③学習室（小説など）貸出はなく、コミセン内で読めます。</li> <li>・ 当コミセンはロビーに設置してある本棚の本を自由に読めるようにしています。貸出についてもきびしく管理はしていません。本はほとんどが寄贈品です。今後余裕があれば増やすことも考えています。</li> </ul>



コミセン親子広場（武蔵野市ホームページ）



子ども室（本宿コミュニティセンター ホームページ）

### 【支援が必要な幼児】みどりのこども館 ウィズ

- ・ 就学前の障害のある幼児のための施設
- ・ 1日2回、絵本を読む時間があり、みんなで読んだり読み聞かせをしたりする。
- ・ 月1回、市立図書館職員による出張おはなし会と図書の貸出を行っている（平成24年5月～）
- ・ 年1回、市立図書館への見学会。実際に絵本などを手に取って選んで、借りてみるなどをする。

子ども用資料の冊数	300冊
子ども用資料の種類	①絵本 ②読み物 ③図鑑 など
子どもへの資料の貸出	施設のみでの利用
子どもの本関連イベント	おはなし会 など



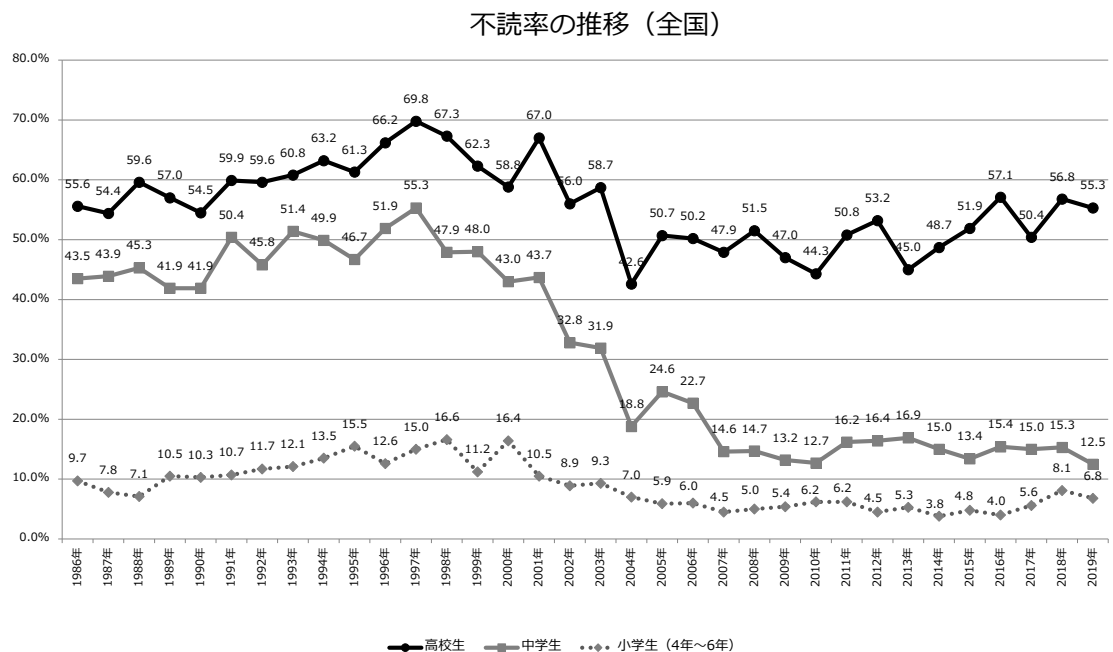
## 5 子どもたちの現状

\* 昨年度実施したアンケート調査結果等について第1回委員会でのご報告に追加してご紹介します。

### (1) 読書の状況

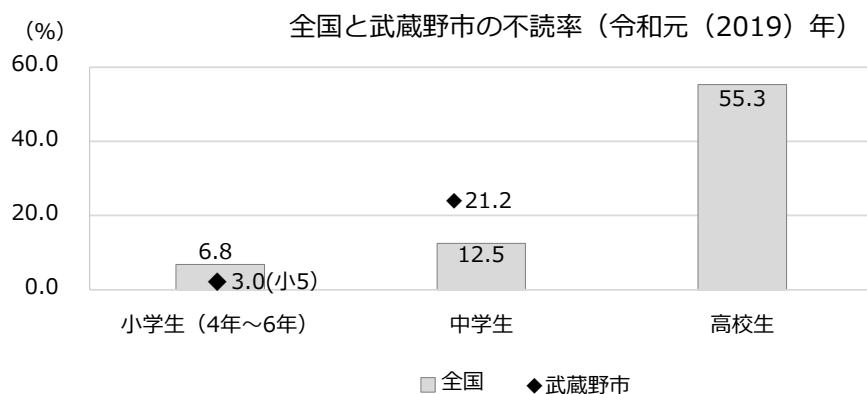
#### ① 1ヶ月に1冊も本を読まない割合(不読率)

- 1ヶ月に1冊も本を読まない割合（以下「不読率」）は、令和元（2019）年は、全国では小学生は6.8%、中学生は12.5%でした。高校生では5割前後となっています。
- 中学生の不読率は、以前は5割以上でしたが、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13（2001）年）以降に劇的に減少し、ここ10年程度は10%代で推移しています。
- 一方、武蔵野市の子どもの不読率は、小学生は1.1%（小学3年生）・3.0%（小学5年生）と全国平均より低いですが、中学生の不読率は21.2%と、全国（12.5%）に比べて高くなっています。



注) 調査対象は小学生（4～6年）、中・高校生は1～3年生

資料：毎日新聞社「学校読書調査」各年版より作成



注) 調査対象月は、「全国」は5月1ヶ月、「武蔵野市」は10月1ヶ月  
武蔵野市の調査対象は小学5年生

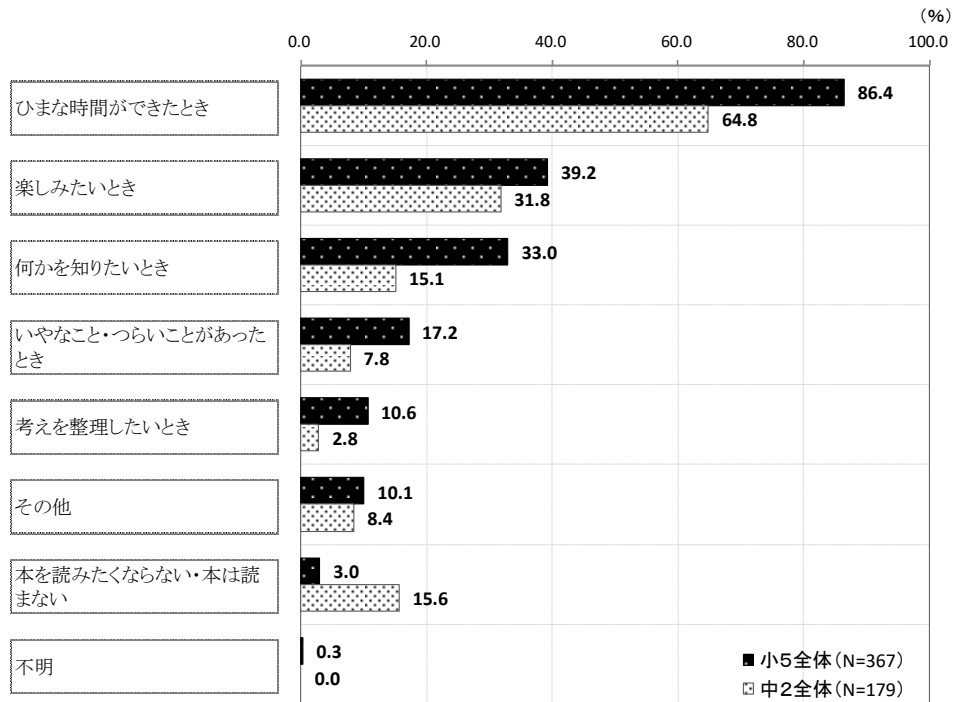
資料：毎日新聞社「学校読書調査」令和元（2019）年版

武蔵野市「武蔵野市子どもの読書状況調査」令和2（2020）年3月

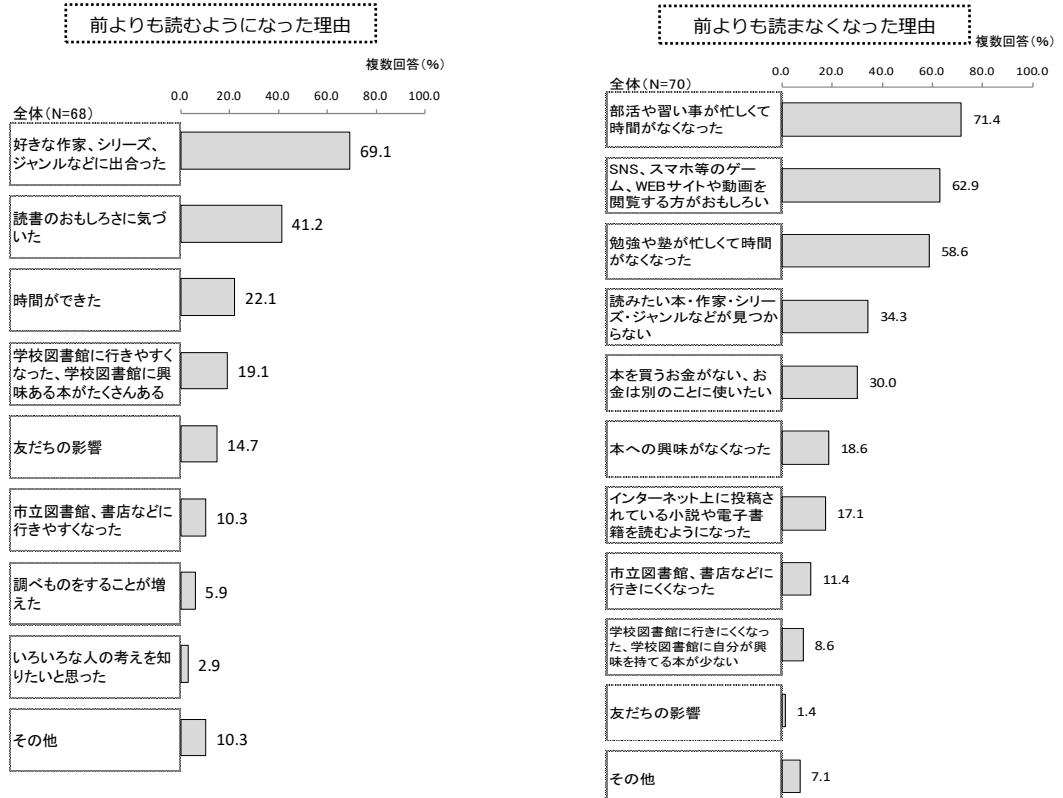
② 本を読む理由(武蔵野市 小5・中2)

- 子どもにとっての本の魅力を知るため、本を読みたくなるシチュエーションを聞いたところ、いずれの学年でも「ひまな時間ができたとき」がもっとも多くなっています。
- 「ひまな時間ができたとき」や「楽しみたいとき」が読書の理由になっていることから、年齢が上がり忙しくなったり、ゲームやスマホなど多様な楽しみに触れたりするようになると、相対的に読書への欲求が下がっていくと推察されます。

本を読みたくなるシチュエーション<武蔵野市 小5・中2>



前よりも本を読むようになった・読まなくなった理由<武蔵野市 中2>【第1回委員会資料 再掲】

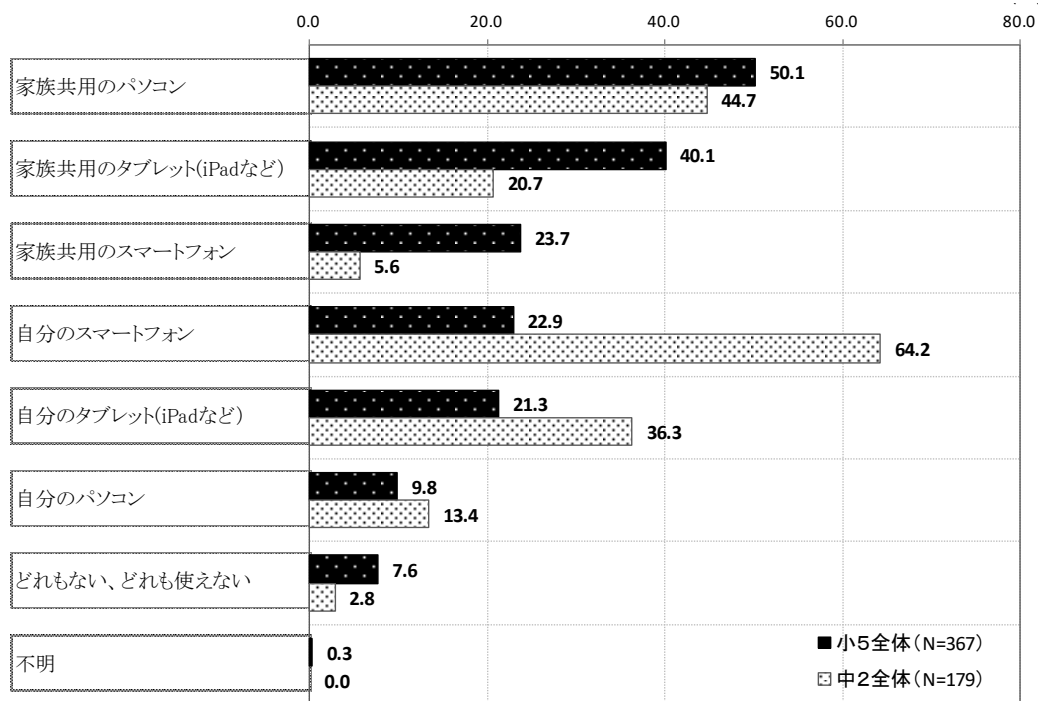


## (2) インターネット、電子書籍との接点

### ① 調べものに使えるスマートフォン・パソコン等(武蔵野市 小5・中2)

- 調べものなどに使えるスマートフォン、タブレット、パソコンなどがあるかどうか聞いたところ、小学5年生では、「家族共用のパソコン」(50.1%)、「家族共用のタブレット」(40.1%)、「家族共用のスマートフォン」(23.7%)と、上位3位を家族共用の端末が占めました。
- 一方、中学2年生では、「自分のスマートフォン」(64.2%)、「自分のタブレット」(36.3%)など、自分専用の端末で調べものをする生徒が多くなっています。

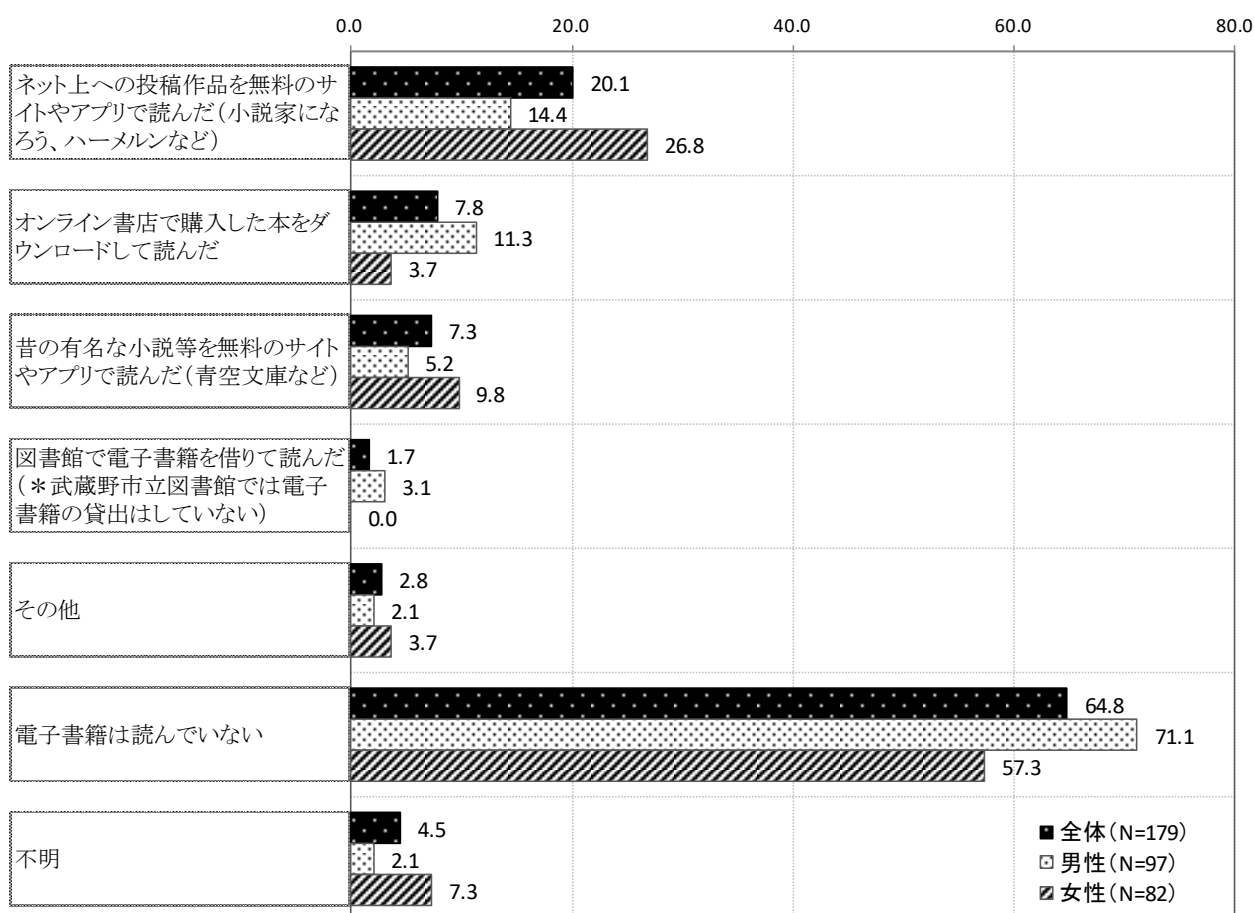
調べものに使えるスマートフォン・パソコン等<武蔵野市 小5・中2>



② 1カ月の電子書籍・インターネット上の小説の読書状況(武蔵野市・中2)

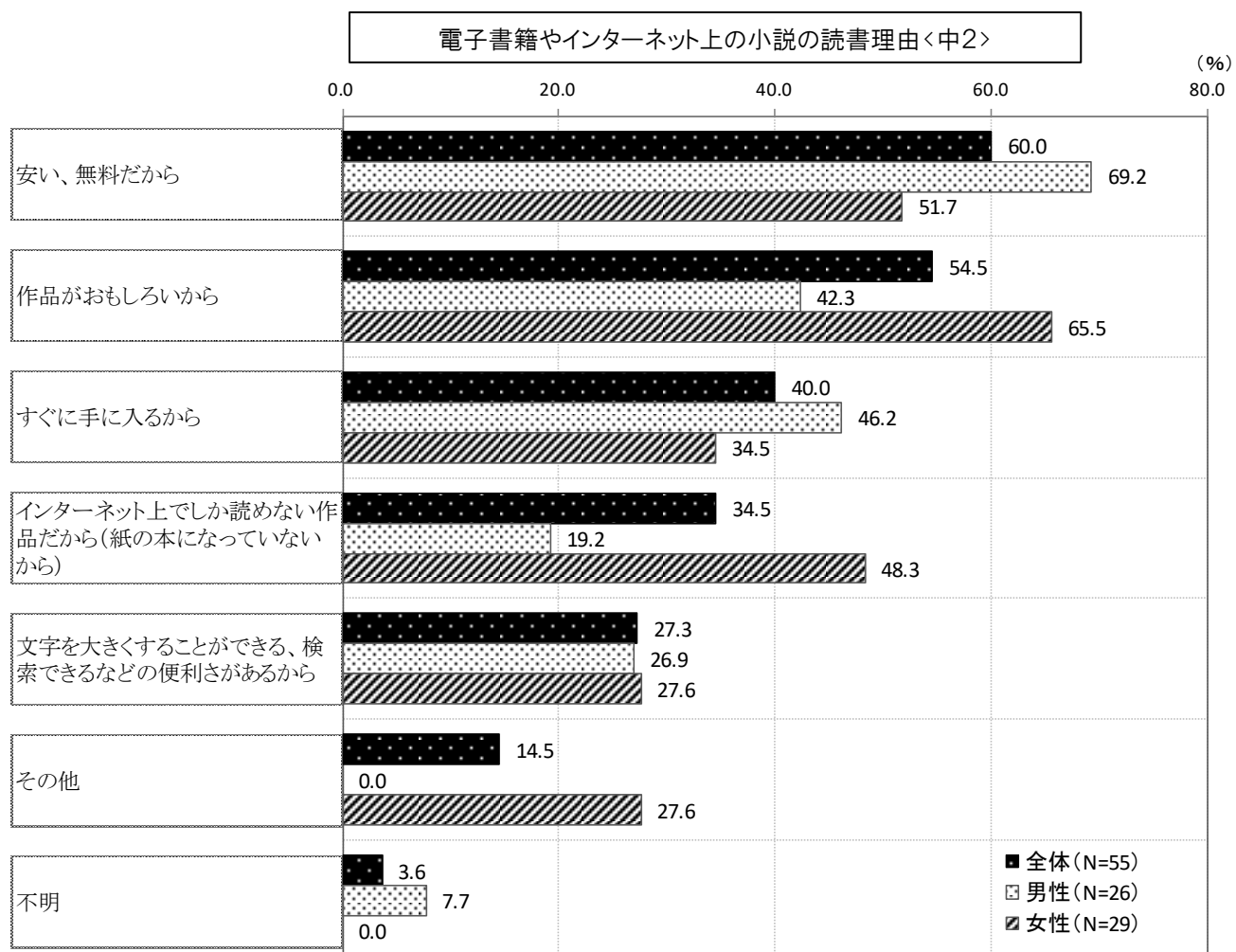
- ◎過去1カ月に電子書籍・インターネット上の小説を読んだ中学2年生は30.7%でした。
- ◎読んだコンテンツでもっとも多かったのは「ネット上への投稿作品を無料のサイトやアプリで読んだ」20.1%（読んだ生徒55名の中では65.5%）で、紙の本を電子化した「オンライン書店で購入した本をダウンロードして読んだ」7.8%（読んだ55名中25.5%）および「昔の有名な小説等を無料のサイトやアプリで読んだ」7.3%（読んだ55名中23.6%）より、かなり高くなっています。
- ◎性別では、「読んだ」生徒は男子より女子が多くなっています。読んだ内容としては、男女とも「ネット上への投稿作品を無料のサイトやアプリで読んだ」が最多でした（男子14.4%（読んだ26名中53.8%）、女子26.8%（読んだ29名中75.9%））。

電子書籍やインターネット上の小説の読書状況<武蔵野市 中2>



### ③ 電子書籍やインターネット上の小説読書理由(武蔵野市・中2)

- 電子書籍やインターネット上の小説を読んだ中学生にその理由を聞いたところ、「安い、無料だから」が60.0%でもっとも高く、次いで「作品がおもしろいから」(54.5%)が続いています。
- 性別では、男子では「安い、無料だから」(69.2%)、「すぐに手に入るから」(46.2%)と価格や利便性が上位にあげられているのに対して、女子は「作品がおもしろいから」(65.5%)、「インターネット上でしか読めない作品だから(紙の本になっていないから)」(48.3%)など、コンテンツの魅力を上位にあげています。





## 6 前計画の取組状況

前計画である「武蔵野市子ども読書活動推進計画」の取組と進捗状況は次のとおりです。

施策	概要	これまでの取組状況 凡例：○実施した活動 ▲課題
【家庭・地域等】 関係機関において様々な読書活動を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の読書に関わる活動の更なる充実</li> <li>・子供の読書に関わる人材の育成</li> <li>・子どもと保護者に対する働きかけの充実</li> </ul>	<p>○子供と保護者が読書に親しむ環境づくりと読書活動支援として、ブックスタート、ブックスタートフォローアップなど、市立図書館主導で多様な事業を導入することができた。</p> <p>▲関係機関の職員を対象とした講座、講演会、研修などは十分に実施できず、今後の課題である。</p>
【学校】 学校図書館の整備が進められ、各校で様々な読書活動を実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の更なる充実</li> <li>・子どもの読書に関わる人材の活用。保護者への啓発、支援</li> <li>・1か月に家で1冊も本を読まない子どもの割合の減少</li> </ul>	<p>○蔵書の充実、展示の工夫など学校図書館機能の充実がはかられた。</p> <p>○学校図書館の開館時間の拡大と読書時間の確保・充実、読書の習慣化が進んだ。具体的には、学校での朝読書の実施、読書週間・旬間の取組などが挙げられる。</p> <p>○学校と市立図書館との連携事業も進展した。「読書の動機付け指導」を継続するとともに、調べ学習や読書活動のため市立図書館から学校に貸出す貸出冊数は、10年間で約30倍となった。</p> <p>○同じく市立図書館による学校連携事業として、サポーター会議での本の紹介や情報提供など、図書館サポーター等を対象とした研修を実施した。</p> <p>▲サポーター会議の回数が減少したため、ここ1～2年、図書館サポーターへの研修が行われていない。サポーター会議の充実、研修などによるスキルアップは今後の課題である。</p>
【市立図書館】 児童書の配備、貸出、紹介等、全ての年齢にわたる子どもたちに読書の機会を提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無認可保育園や私立学校への情報提供や支援</li> <li>・中高生を対象としたサービスの展開</li> <li>・子ども読書に関わる人材の育成</li> </ul>	<p>○児童、ヤング・アダルトサービスの充実については、これまで行ってきた児童向けの様々なサービスを継続および充実するとともに、武蔵野プレイスを中心としたYAサービスの充実を図った。</p> <p>○ハンディキャップをもつ子どもへのサービスの実施として、みどりのこども館、さくらっこクラブへの出張おはなし会の実施、夏休みのバリアフリーイベントなどを継続実施している。</p> <p>○子どもの読書に関わる人材育成事業として、ブックスタート事業にボランティアを導入し、育成および活用につとめている。</p> <p>○学校での保護者への読み聞かせ講座の実施など、保護者への啓発活動の実施、子どもの読書に関わる活動への支援を行っている。</p> <p>▲学校での保護者向け講座などについて、学校との調整がつかず、ここ数年は実施できていない。</p> <p>▲ブックスタート事業以外ではボランティアの導入などが進んでおらず、今後の課題である。</p>
【関係機関等の連携、協力】 図書館等関係機関や学校間の連携、保護者や地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭、学校、図書館など地域社会全体のより効果的な連携</li> <li>○子どもの読書に関わる人材の育成・確保</li> </ul>	<p>○市立図書館と学校との関係性は、事業や本の貸出などを通じて、築けてきている。</p> <p>○「しおりちゃん」「ぶっくまーく」「しんいちねんせいにおすすめのほん」「赤ちゃんと一緒に絵本を」「絵本で広がる楽しい世界」「図書館のおすすめ本</p>

<p>の協力の下、読書活動を展開</p>		<p>小学校4・5・6年生用」「図書館のおすすめ本 中学生用」など、それぞれの年齢層に合わせた、読書の指針となるようなブックリストを継続的に作成している。</p> <p>▲家庭、地域、学校、関係機関をつなぐ中心機関、読書活動に関する相談窓口としての市立図書館の体制整備については、今後の課題である。</p>
----------------------	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 7 現状と課題の整理

以上の現状整理から、武蔵野市における子ども読書への取組と導き出される課題の方向性は、次のようにまとめられます。

凡例：◇現状 ◆課題（太字は特に重要な課題）

	乳幼児と保護者への取組	小学生と保護者への取組	ヤングアダルト (YA) への取組
市立図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むさしのブックスタート[→P10]</li> <li>・むさしのブックスタートフォローアップ[→P10]</li> <li>・人形劇、講演会、乳幼児向けおはなし会[→P10]</li> <li>・おはなし会[→P10]</li> <li>・配布物の作成[→P10]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童向け図書館イベント（こどもまつり、どっきんどうぶ、夏休みこども教室、春休み児童向けイベント等）[→P11]</li> <li>・おはなし会[→P10]</li> <li>・配布物の作成[→P11]</li> <li>・テーマ展示[→P11]</li> <li>・一日としょかんバリアフリー体験[→P14]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武蔵野プレイス ティーンズスタジオ[→P12]</li> <li>・職場体験の受け入れ[→P12]</li> <li>・図書展示[→P12]</li> <li>・YA世代向けイベント[→P12]</li> <li>・配布物の作成[→P12]</li> </ul>
学校・地域施設との連携により実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮が必要な子ども向け出張おはなし会[→P14]</li> <li>・配慮が必要な子ども向け図書館見学会[→P14]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の動機づけ指導[→P13]</li> <li>・子ども図書館芸賞[→P13]</li> <li>・学校への資料貸出[→P13]</li> <li>・図書館見学・調べ学習の受け入れ[→P13]</li> <li>・学級文庫、学童保育への団体貸出[→P13]</li> <li>・児童書リサイクル事業[→P13]</li> </ul>	
学校・学校図書館	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書[→P15]</li> <li>・読書旬間[→P15]</li> <li>・読書の時間[→P15]</li> <li>・テーマ展示、おはなし会など[→P15]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書[→P15]</li> <li>・読書旬間[→P15]</li> </ul>
公共的施設（教育・福祉・地域施設等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育園・幼稚園・こども園等での取組[→P18] <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児用の図書や資料の提供</li> <li>・おはなし会などのイベント実施</li> <li>・保護者への絵本講座等の実施 など</li> </ul> </li> <li>●「0123はらっぱ」の取組[→P20] <ul style="list-style-type: none"> <li>・各館 3000 冊の図書コーナー、子どもが本を読みやすい環境づくり</li> <li>・おはなし会などのイベント実施</li> <li>・保護者への絵本講座等の実施 など</li> </ul> </li> <li>●コミュニティセンターでの取組[→P23] <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども室の整備</li> <li>・親子広場などのイベント実施</li> </ul> </li> <li>●みどりのこども館ウィズでの取組[→P24] <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前の障害のある幼児に向けて絵本に接する取組</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学童クラブでの取組[→P21] <ul style="list-style-type: none"> <li>・200 冊以上、多いと 1000 冊以上の子ども向け書籍・マンガなどを整備</li> <li>・おはなし会などのイベント実施</li> </ul> </li> <li>●地域子ども館あそべえでの取組[→P22] <ul style="list-style-type: none"> <li>・200 冊以上、多いと 1000 冊以上の子ども向け書籍・マンガなどを整備</li> <li>・おはなし会などのイベント実施</li> </ul> </li> <li>●コミュニティセンターでの取組[→P23] <ul style="list-style-type: none"> <li>・館によるが、数十冊から数百冊の子ども向け資料を整備</li> </ul> </li> </ul>	
子どもたち・保護者の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブックスタートは 87.5%、ブックスタートフォローアップは 80.6%の保護者が「役に立った」と回答</li> <li>●「幼児のときに読み聞かせをしていた」保護者は 84.6%。「子どもの手に取りやすいところに本を置いている」保護者は 66.2% [→以上、第 1 回委員会資料]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●不読率は小 3 が 1.1%、小 5 が 3.0%。全国平均（6.8%）より低い</li> <li>●読書が「好き」は 8 割以上</li> <li>●平均読書冊数は多い傾向</li> <li>●学校で「朝読書などがある」（83.7%）、「学校図書館にはおもしろい本がたくさんある」（73.0%） [→以上、第 1 回委員会資料]</li> <li>●本を読むのは「ひまな時間ができたとき」（86.4%） [→P26]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●不読率が 21.2%と、全国（12.5%）に比べて高い[→P25]</li> <li>●電子書籍を読む中学生は 3 割。読んでいるのは「インターネット上への投稿作品」など、書籍化されていないコンテンツ [→P28]</li> <li>●中学生になって、本を「前よりも読むようになった」（38.1%）、「前よりも読まなくなった」（39.1%）</li> <li>●読まなくなった理由は「部活や習い事が忙しい」（71.4%）「SNS、スマホがおもしろい」（62.9%） [→以上、第 1 回委員会資料]</li> </ul>

◇市立図書館は蔵書数・貸出冊数とも多く、多くの子どもたちが利用  
◇前計画以降、子ども読書推進に向けた取組は大きく進展  
◆家庭、地域、学校、関係機関をつなぐ中心機関、読書活動に関する相談窓口としての市立図書館の体制整備に課題

◇学校図書館の蔵書整備などは進展  
◆**学校図書館の充実**  
・学習センター、情報センター機能の強化  
・人的配置・人材育成  
◆学校図書館情報の一元化、学校図書館間の連携体制等にも課題

◇各公共的施設が、乳幼児やその保護者、小学生に向けて積極的に読書推進  
◆中高生に取組む公共的施設は少なく、中高生の「場づくり」が課題

◇乳幼児や小学生では、読書活動は盛ん  
◆中学生になると「不読率」が上昇、改善に向けたアプローチが必要

**【現状と課題を踏まえた検討テーマ】**  
◆「読書」という言葉のとらえ方  
・「紙の本」を読むことを読書ととらえるか  
・電子書籍あるいはインターネット上の情報を読むなど、どこまでを読書ととらえるか  
◆「よい読書環境」の整備  
・子どもの発達段階に応じた適書をどのように提供していけるか

◇ブックスタート事業をはじめ多くの事業が軌道に乗り一定の成果をあげている  
◇子育て施設等でも、乳幼児の読書推進に積極的に取り組んでいる  
◇子ども読書に積極的な保護者も多い  
◆**「家庭」「保護者」へのアプローチ**  
・図書館を利用しない方へどのようにアプローチしていくか  
・子ども施設利用者へのアプローチをどうしていくか  
・公共的施設を利用しない方に、どのようなアプローチ方法があるか  
◆**公共的施設と市立図書館の連携のあり方**

◇地域の施設も含めて、児童対象の多くの読書推進活動が行われている  
◇学校図書館と市立図書館との連携も進展  
◆**「読める力」に向けたアプローチの必要性**  
・小学生とその保護者へのアプローチとして足りないものは何か  
・小学生のときの「読み方」に、中学生の高い不読率の背景となる要因がないか

◇武蔵野プレイスによる YA の居場所づくりは一つのモデルケースに  
◆**乳幼児、小学生と比較して、YA 対応が手薄**  
◆**中学生の不読率の改善**  
・「場づくり」を、どのように進めていくか  
・10 代の読書をどのように位置づけていくか  
・10 代における読書時間を、どのように確保するのか